



医療イノベーションを目指した創薬開発

医学部 医学科 教授 **宮本 新吾**

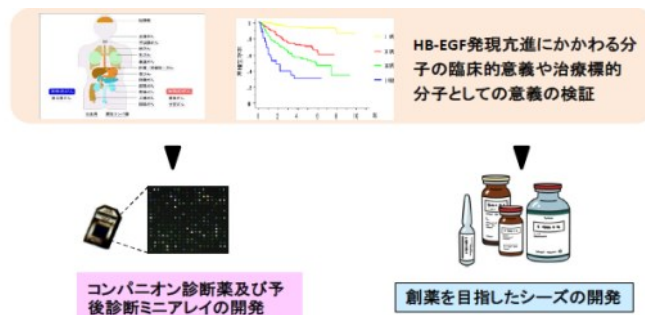
分野 医療

キーワード 創薬開発、コンパニオン診断薬、医師主導治験

○ 研究シーズ概要

ヘパリン結合型上皮系増殖因子（HB-EGF）は、卵巣がん、胃がん、乳がんなどの悪性腫瘍の増殖に中心的役割を果たすことを見出しました。文部科学省「がんトランスレーショナル・リサーチ事業」・「橋渡し研究推進事業」や厚生労働省科学研究費の助成を受けて、HB-EGF特異的抑制剤である治療薬BK-UMの創薬開発を行っています。また、BK-UMを用いた治療の適応を診断するコンパニオン診断薬を同時に開発しています。

- ① 非臨床試験では、製剤学的（GMP適合）、安全性（GLP適合）、薬効試験を終了しています。
- ② 第 I 相臨床試験では、11名の症例にBK-UMを投与し高い安全性と期待できる有効性を示しました。
- ③ 第 II 相臨床試験を実施中で、途中結果では予想された有効性を示しています。
- ④ 今年度末より、胃がん症例を対象にした、第 II 相臨床試験を開始します。
- ⑤ 来年度より、静脈投与による第 I 相臨床試験、第 II 相臨床試験を企画しています。
- ⑥ コンパニオン診断薬を開発中です。
- ⑦ 新たながん治療の標的分子の探索・同定を行い、既に一部の分子については創薬開発も行っています。



○ 研究シーズの特徴、効果、独創的な点

- 世界で初めてHB-EGFを乳がん、卵巣がん、胃がんなどのがん治療の標的分子であることを実証し、その分子の働きを特異的に抑制するBK-UMをがん治療薬として開発しています。
- BK-UMの適応を診断するコンパニオン診断薬を開発しています。

○ 本研究シーズの適用分野、用途

- 卵巣がん、乳がん、胃がん、子宮体がん、肺がんを対象とした治療薬
- 治療薬の適応を診断する診断薬

○ 論文、知的財産情報等

制癌剤 特許第5110980号（制癌剤を含めて7件を登録）